

SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com
大阪市中央区谷町 2-5-4 702 号 Tel: 06-6946-9505

① 「離婚できない！」

離婚を考える妻が離婚に踏み切れない理由は、多くの場合「離婚したあとの生活が成り立たないこと」です。この理由を逆さに見ると「経済的な裏づけさえあれば離婚に踏み切れる」ということになります。

離婚願望を露ほども見せることなくすごしてきた妻が突然夫に離婚話を切り出すのは、経済的な見通しが立ったときかもしれません。

離婚に踏み切るかどうかは子どもの存在とも切り離して考えられません。

「離婚するにしても子どもの生活に影響が少ない時が来るまで待とう。」という考えと、「壊れてしまった結婚生活を続けていては子どもにも悪い影響を与えるから今すぐ離婚しよう。」という考えの二通りがあるようですが、どちらが子どもにとって影響が少ないと考えるかは人それぞれでしょう。

子どもがまだ小さい場合は、仕事につくにしても、今ついている仕事の枠を広げる（キャリアアップ）にしても、「子どもの世話をどうするか」という問題が常についてまわります。経済的な自立を目指すのは簡単ではありません。



妻だけでなく夫にとっても課題があります。妻が親権者であれば養育費、妻が安定した収入を得られなければその生活費、夫婦で暮らした住まいが持ち家であっても、ローンを払い終わっていないければ「家をどうするか」も考えなければなりません。

離婚後の妻や子の生活に無関心でいることは許されません。

❶ 「離婚は待って！」

離婚には結婚したときと比べ物にならないほどのエネルギーが必要です。元々他人のふたりが、あるきっかけで出会ってお互いを気に入り、「この人なら」と思ったから結婚したのですが、その中には何の障害もなくすんなり結婚した人もいれば、周囲の反対を押し切って祝福を受けることなく結婚した人もいることでしょう。反対を押し切ってまで結婚したのに、離婚に至るとは・・・。

ある日ふと相手の言葉やしぐさの中に自分が嫌いなものを発見して、それが徐々に大きくなりやがて我慢ができなくなる、そんなことではないでしょうか。



熱烈な恋愛感情はいつまでも続くものではありません。恋愛感情に代わって夫婦関係を支えていくのは、お互いをひとりの人間として見たときの好感や信頼感でしょう。無遠慮な態度や厚かましさは年月とともに向上するのに対して好感や信頼感は油断するとすぐに薄らいでしまいます。

好感や信頼感が薄らいでしまったら何が夫婦関係を支えるのでしょうか？

「子どもの存在？」しかし子どもはやがて成長し結婚するか独立して家を出ます。子供が家を出たあと、長い人なら40年に及ぶ人生をどう生きるか、これは手ごわいテーマです。

「忍耐力や環境適応力？」家族のためを思えばこそ耐えられることや自分を後回しにできることは、「家族のため」と思えなくなってしまったらもはや「力」ではなくなります。「あきらめ？」それとも「安定した居心地？」・・・段々と夢のない話になってきましたので、この辺でやめましょう。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: info@setogiwa.com Web: www.setogiwa.com

19歳の母親が熱湯の入ったベビーバスに2歳の娘を入れて大やけどをさせた。同年の友人が遊びに来ていたが、2歳の娘が熱さに泣き叫ぶのを見て母親とふたりで笑い転げた。テレビのバラエティ番組で見たのを真似たという。